

みなしご通信



獣医師会に頼る広島市に失望

私、広島市に大変失望いたしましたのでいろいろと考え方を考える時が来たのかなと思っております。 Sassari いきまず！日本の中で《動物愛護先進県》と言えば東京都と神奈川県。先進県は後進県と比べてどこが違うか。先進県では獣医師会が威張ってない！後進県では獣医師会が圧力を持ち威張っています！東京・神奈川県だと愛護精神がある獣医さんは獣医師会に入らないという自由を持っています。本当の意味で力のある獣医さんは《自分の意思を持っていて》ので明確な愛護精神のもと《望まれない命を増やさないために》安価な手術料で丁寧な不妊手術を施します。超・服従型縦組織の仲間に入って変な力を持つている獣医に抑えられ横並びになるなんて不自由なことは選びません！

その点私が生まれ育った広島ではまだまだ獣医師会がハバをきかしているんな権限を持ち続けていて出る杭は打たれまくっています。2011年、広島県はついに殺処分数が日本一になりました。県庁所在地の広島市で犬と猫の殺処分の比率をみていくと大多数が猫。まず殺処分を止め、同時にTNRも進め、いつかは地域猫を根付かせにやらん。当時の広島市は1年に千数百匹の猫が殺されています。それを全頭引き出すには施設と費用と高いスキルと強い《覚悟》が要る。すでに広島本部で650

匹の猫を保護育成していたのでスキルはあり、うちの者たちは《なんでも来い！》と自信満々な状態。新たな猫舎を建てこれまでの実績どおりすべてを含め半年でメドが立ちました。ヨシ！2013年6月まず『殺処分対象の猫全頭を引き出そう』私は広島市のセンターに申し出ました。とりあえず【中谷がうるさいから】ハイハイ！OK！私の《嫌われっぶり》が功を奏し、猫全頭の引き出しはすんなり承諾されました。

この8年で犬猫みなしご救援隊が県内のセンターから引き出した殺処分対象の猫は約1万3千匹！その後犬の殺処分も止まったためとりあえず2014年から広島市の殺処分はゼロになりました。しかし根本的な解決ではありません。それに気づいた当時の職員獣医が私に相談したことで広島市の地域猫活動構想が現実味をおびました。

術をする場所すらなく、もちろん市の職員獣医には手術の腕がありませんでした。センターの休みの日に合わせてうちの診療所に神奈川県の山口先生を呼んで手術の研修会を開いてもらってどんな猫でも手術ができるようになり、譲渡室と手術室も確保。2015年、センター職員によるTNRや地域猫活動ができる準備がすべて整いました。

すぐさま当時の佐伯所長が獣医師会に相談。「予算はないけど野良猫の不妊・去勢手術のご協力をいただけませんか？」偉い先生たちは「予算がない？笑かすな！誰が手伝うか！やりたきゃ職員が勝手にやりやがれ！」私が読んでいた通りの《模範的回答》でした。腹の底で私は手を叩いて喜びました。バンザイ！これで獣医師会に義理は通した！これでもう《邪魔をするヤツ》はおらん！【野良猫の利益を最大限に考えた不妊手術】を施す《センター独自の》地域猫活動を始めよう！

その後広島市のセンターでは所長が変わってもこの体制は変わらず、捕獲された猫に対し最高の技術を使って子宮・卵巣を取り出しても手術痕は1cm。安価だからとやがて肉が盛ってしまようなワイヤー糸など使わずお腹の中も皮膚も猫の皮膚に優しい吸収糸で縫合、もちろん生ワクチンも打ってノミマダニ駆除剤と耳ダニ・疥癬・回虫等の駆虫剤もつけ続けました。

その間「野良猫は迷惑」と地域猫活動に理解を示さない町内会にはセンターの職員と一緒に説明会を開いて私はいろんな道理を説き中谷が説明会に行くと必ず地域猫が決まると言われ《100%の女》として実績を積み上げました。地域猫活動に参加した町内会からは「してよかった」と喜んでもらえ職員も士気もドンドン高まりセンターはそりゃくええ雰囲気でした。「捕獲器が足りない」と聞くとすぐに犬猫みなしご救

★祝100号！今後とも犬猫みなしご救援隊をよろしくお願いたします

援隊から30台50台と無償で提供しました。

それから7年の月日が流れ、所長だった鈴木さんが定年退職後に手術要員として戻ってきたりして広島市の地域猫活動は順調に進んで町内会の考えも変わり、私も隠居の身となりましたが、地域猫活動が私の手から離れても広島市のセンターでは最初のまま始めたときのまま【野良猫の利益を最大限に考えた不妊手術】は職員獣医に脈々と受け継がれ《地道に》続いています。去年1年間、市のセンターでは1266匹の猫に不妊去勢手術を施したそう。ところがここに来てセンター職員だけでは手術が追いつかないとの苦情が町内会やボランティアから来るようになったとかで予算を付けて県獣医師会に頼むと決まってしまうました。ええですか！皆さま！《大きな権威》から攻撃される事を覚悟で言いますが獣医師は動物を取り扱う仕事をしている《だけ》でそこに動

物愛護精神があるわけでありませぬ。獣医の言うことを丸ごと信じる人がいます。それがまったくの間違いです。

私は獣医師会の地域猫不妊手術について現センター所長に問いました。『獣医師会もワクチンを打ってくれるのか？』答えはNO！『猫がかわいそうじゃないか！』と訴えると「広島県も呉市も獣医師会に手術を委託されてるんです。予算の関係でワクチンを打たないのは仕方がない」と所長はあ？バカじゃない？横並びする必要なかる？何がムカつくってね、獣医師会に頼んだ場合、獣医に支払われる手術費用が1匹あたり1万円だから※私に言わせれば1万円も出る《獣医が損しないよう》安い糸、ワクチンなし、ノミマダニ剤なしなわけですよ！
ということでは毎年1200匹ぐらいの猫は広島市のセンター内で職員獣医によって【野良猫の利益を最大限に考えた不妊手術】



を施してもらえなければ、これに漏れて獣医師会に回された400匹の猫は営利目的の動物病院内でお腹を驚くほど大きく開けられ不妊・去勢手術以外は施してもらえないのです。これからは広島市の中にはこの2種の地域猫が存在していくわけです。手術がヘタクソな獣医が圧倒的に多いです。左の写真は一般の動物病院で避妊手術をした場合の傷跡です。これだけ切られたんじゃ野に放たれたあと猫がどんだけお腹が痛くて苦しむと思えますか？『手術代が無料だから、野良猫だから仕方ない』という言葉は私には存在しません！むしろ野良猫だからこそたった1回のチャンスでできる



限りのことを施したいという思いしかありません。次の写真は、私たち医療チームの避妊手術の傷跡。こんな小さな傷で子宮&卵巣を取り出します。広島市のセンター職員はこの手術ができます。明日には野っぱらを駆け回る野良猫たちへの手術にはこれぐらいの慎重かつ丁寧さが要求されます。傷跡が小さくお腹の中も外も吸収糸を使っており、猫が気にしないから舐めることもありませぬ。かつて私と一緒に《できる方法》を模索した職員獣医は誰1人残っておらず、広島市は《できない理由》を見つけてセンターに成り下がっていました。

NPO法人(特定非営利活動法人) **犬猫みなしご救援隊**
www.minashigo.jp

犬猫みなしご救援隊
〒731-0234
広島県広島市安佐北区可部町大字今井田690-2
TEL : 082-812-3745 FAX : 082-815-2711

みなしご通信のバックナンバーは、公式ページ
(http://www.minashigo.jp/newpaper/index.html)に掲載しております。

スマホをかざすだけで募金ができる
かざして募金
JAPANGIVING

ソフトバンクの「かざして募金」、ジャパングIVINGで寄付ができます。
(https://japangiving.jp/supports/1281) 皆さまからのご支援、よろしくお願いたします。

本紙は中谷百里代表ブログ「みなしご庵へようこそ」の記事を抜粋したものです。